「特別活動」と「国語」に関する小中一貫モデルカリキュラムの開発
：紫波町東部地区を対象に

馬場　智子*，坂本　有希**，菅原　裕子，佐々木　啓太，昆　陽依，古谷　京香，
黒渕　大介，及川　総司，近藤　開人，本宮　大千***

（令和４年２月10日受付）
（令和４年２月14日受理）

BABA Satoko*，SAKAMOTO Yuki**，SUGAWARA Hiroko，SASAKI Keita，KON Hiyori，FURUYA Kyoka，
KUROBUCHI Daisuke，OIKAWA Soji，KONDOU Kaito，MOTOMIYA Daichi***

The Development of a Model Curriculum Spanning Elementary School to Middle School for "Special Activities" and "Japanese"
：Focusing on the Eastern Area of Shiwa Town

要　約

本稿は、平成29（2017）年に改訂告示された学習指導要領を踏まえながら、教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）の１年次講義科目である「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」（前期必修）、および「学習指導要領とカリキュラム開発」（後期必修）の成果として、特色あるテーマをもとに校種をつなぐ「特別活動」および「国語」のモデルカリキュラムを開発し、提案するものである。両カリキュラムの特徴は、既存の教育資源を活かし、新たに小中一貫教育を始める当地域だからこそ実現できる系統的かつ往還型の異年齢交流を中心に据えた点である。課題として、①特別活動では、学校の再編によって地域単位が変わるため新たな地域との連携体制が必要となること、②国語では、教科横断的な取り組みへの具体的提案が求められること、が挙げられた。

１．本研究の目的

本稿の目的は、新たに小中一貫校での教育を開始する紫波東部地区の地域的特質と教育課題を分析してモデルカリキュラムを構想し、提案することである。また、各カリキュラムに対する紫波町教育委員会による考察についても提示する。

特別活動では、学習指導要領、特別活動の小、中学校の目標の中から「集団活動」「人間関係」「生き方」の３つに注目してカリキュラムを開発する。これは、町での調査結果から明らかとなった紫波東部地区の児童生徒たちの「自分の良さが分かり他者との関係づくりができる」等の良い点や、「固定的な人間関係、社会参画における主体性の無さ」といった課題に対応するものである。固定的な人間関係から交流の範囲を広げ、主体性を発揮するための活動として、「地域発信および連携」を目指したICT教育と連動した委員会活動や、小学生・中学生が役割をもって活動する「東学園カンパニー」を構想した。当カンパニーでは学校を取り巻く環境として地域との産業や交流を通したつながりが確認されていることから、地域産業の一つである「サツマイモ」を教材として実践例を

＊岩手大学教育学部，＊＊岩手大学大学院教育学研究科，＊＊＊岩手大学大学院県教育学研究科教職実践専攻

提示する。中川・林（2011）は、栽培が容易で低学年児童にも自分たちの力で収穫までの活動を行うことができ、大人の支援を得ずに栽培したことにより自信を得られることや、食料が不足した時代に人命を救ってきた歴史があることで、地域の方々に歴史や実体験を伺うといった交流活動にもつなげられるなど、サツマイモは多様な学びを引き出せる教材であるとしている。低学年児童も達成感を得られる関わり方ができ、かつ色々な側面から学べるということは、小中一貫教育という幅広い学年の児童生徒を対象とするカリキュラムに適した教材でもあるといえるだろう。

国語では､音読･朗読を柱としたモデルカリキュラムを示す。花坂（2015）は音読・朗読の指導の要点を、①書かれてある通りに音声化する態度を身につけさせる、②より明瞭な発音へと改善させる、③言語の韻律的特徴（言葉の響き、リズム、抑揚、強弱、間）を体感させる、④読むことを通して、自身の理解を深めさせる、⑤聞き手への伝達を意識させる、⑥他者の朗読を聴き、自身の理解を深めさせる、の６つに分類している。その上で「音読・朗読を『話すこと・聞くこと』と『読むこと』の両方にまたがって成立する言語行為であると考えている」（p.7）とし、音読・朗読の指導には、自分の考えを相手に伝える・相手の考えを理解するという内容を含むことを示している。

現行の学習指導要領も第５・６学年の音読・朗読について「文章の構成や内容を理解して音声化することに加え、自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読や朗読をすることが求められる」（文部科学省, 2017b, p.123）としており、花坂が指摘した意図を含むことがわかる。モデルカリキュラムにおいては、2021年の岩手県学習状況調査において、小５国語、中２数学の記述問題の無解答率が高かったことから、音読・朗読を通じて自身の考えを表現することと、相手の考えを理解するという、他教科にも関連する力の育成に取り組んだ。（文責：馬場智子）

２．小中接続モデルカリキュラムの提案

１）「特別活動」について

（１）特別活動における現状把握

学校はまさに社会の縮図であり、児童生徒にとって一番身近な社会である。特別活動では、学校生活そのものが教育の対象とされている。このことから学校での児童生徒の実態やニーズを把握し、教育活動を設定することが重要である。

紫波町（2019a）および令和３年11月に行われた紫波東中学校見学での聞き取り調査によると、児童生徒の良さとして、「自尊感情・自己肯定感が高い」「他者を尊重することや､思いやりを持って行動することの大切さについて、理解している」「転入生の受け入れがいい」「通常学級と特別支援学級の区別なく生徒同士が自然にかかわることができる」などが挙げられた。また、学校の設備環境としては新校舎で各教室および学校全体のICT 環境の充実が図られている。一方で課題としては「学級や学校、地域などの固定的な人間関係の中では､素直に自分を表現することが出来るが、非日常的な環境では主体性に欠ける部分も見受けられる」や、「世の中一般の情報に過敏で、SNSの情報などがあっという間に広がってしまい、素直すぎるが故に情報の取捨選択の場面において危険性を伴う」「中1ギャップへの不安」などがある。また、集団活動に関する実態として、統合以前の地区内の５つの小学校が小規模校であり、複式学級で学ぶ児童が多いなど、児童同士の交流の機会の少なさが指摘される。

紫波東学園の教育的地域資源として紫波町教育委員会への質問に対する回答（令和３年11月18日メールにて受信）によると、リンゴやサツマイモなどの農産物の栽培が盛んであること、紫波町ホームページ（教育振興運動）によると、各地区において、教育振興運動活動が実践されており、東地区においてもこれまでの各小学校での取り組み事例が紹介されている。

（２）カリキュラム開発の視点

学習指導要領、特別活動の小、中学校の目標の中から「集団活動」「人間関係」「生き方」の３つ

に注目した。これは、今回の学習指導要領改訂において小学校、中学校、高等学校の系統性を重視した目標設定の視点であり、小中一貫校としてスタートする紫波東学園においても重要な視点だと考える。紫波東地区の児童生徒たちの「自分の良さが分かり他者との関係づくりができる」等の良い点や、「固定的な人間関係、社会参画における主体性の無さ、SNS における情報活用能力の脆弱性」等の課題、および学校を取り巻く環境として地域との産業や交流を通したつながりが確認された。これを踏まえ、特別活動で目指す資質・能力を人間関係形成における「違いを認めあい、みんなと共に生きていく力」、社会参画における「よりよい集団や社会を創ろうとする力」、自己実現における「なりたい自分に向けてがんばる力」とし、紫波東学園での各活動、学校行事を通して育成を目指す資質・能力、そのために重視する学習過程を明確化する。

紫波東学園は小中一貫校・施設一体型であるため児童生徒が同じ学び舎で９年間の学校生活を過ごすことのメリットは大きい。特別活動に関して言えば、９年間の特別活動が系統的に活動することが可能となり、従来型の義務教育６・３制にとらわれない様々な教育活動や教育形態が期待される。そこで、紫波東学園９年間の特別活動のテーマを「ICT を活用した異年齢交流、地域発信および連携を図る特別活動」とし、児童生徒会活動、委員会活動、学校行事に関する提案を行う。

（３）特別活動における具体的活動の提案

１つ目は、９年間を見据えた児童会生徒会活動の提案である。話し合いながら合意形成し、話す力を育むこと、異年齢集団で互いを尊重し合い、思いやりの気持ちをもちながら協力して生活する等、児童生徒が互いに学校および社会生活に適応する力を９年間で育てる必要がある。人間関係形成づくりにポイントを絞り、「異年齢集団の中で協力・協働し学校生活の充実・向上を図ること」を指導目標とし、次の活動を提案する。

①児童会生徒会活動（児生会活動）：小中合同の執行部からなる児童・生徒会組織が中心となって東学園の学校生活の充実・向上を目指す。児生会の執行部メンバーは、小学５年生から中学３年生で構成され、小中連携して取り組む。②児童会小学部会・生徒会中学部会活動：児生会の下部組織として構成し、各カテゴリーにおける学校生活の充実･向上のため取り組む。小学部会の構成は、小学１年生から小学５年生とし、小学５年生が小学部のリーダーとして活動する。小学５年生が中心となり活動することでリーダー性が育ち、生徒会活動を前に児童会活動を実践的に経験できるメリットがある。また、中学部会の組織は、小学６年生から中学３年生とし、小学６年生は生活面において中学部の生活イメージや活動を小学６年生から経験することで、中１ギャップの解消の手立てとなる。中学３年生は、紫波東学園の学校づくりのリーダーとして様々な活動において活躍を担うため、柔軟に対応できるよう独立させる。中学３年生が話し合い活動の模範となることで、各学年の話し合い活動の指導等の学校づくりに主体的に参画していくことが期待される。また、紫波東学園の学校づくりを生徒自身が主体的に考え、他の学年も取り組みが活性化され充実した活動につながると考えられる。③縦割り活動･委員会活動･学団集会：掃除や異学年交流、集会活動等も紫波東学園の規模であるなら円滑に活動できる。委員会活動は小学５年生から中学３年生を対象とし活動することも小中連携の意味を成すものである。また、学団集会に関しては発達段階や行事等目的に応じた柔軟な集会活動が可能となる。④ICT を活用した話し合い活動の充実：アンケート集計、質問意見の送受信、代表委員会の月別反省の送受信、話し合い活動のオンライン配信を行う。学校内外への発信により、児童生徒の他者意識が芽生え、話し合い活動が充実し、話す力等に関する発信力が育まれるものと考える。

２つ目は、ICT を活用した委員会活動の提案である。自己実現にポイントを絞り、児童生徒の力を育むべく、「モラルを踏まえた情報発信力」「異年齢交流によって立場や役割の違う人と関わることでコミュニケーション能力」を育成し「モラル

を身に付け、正しい情報をもとに発信する」という指導目標を考えた。情報モラルについては、各学年において発達段階に応じた資質・能力の育成が行われていることが前提となる。

各委員会のSNSアカウントを設置し、発信の主体は生徒とする。しかし、この時発信前に必ず教員の指導が必要となる。発信の対象は、学校内外（保護者・地域等）の両方であり、学校生活や行事の告知を行うことを想定する。SNSを利用しない世代へ向けては、タブレットを使って作成した広告チラシを配布し、場合によっては、活動の様子をLIVE配信する。また、情報委員会などの委員会活動で、児童生徒自身で情報モラルの内容を含む啓発動画を作成し、危険性を発信するとともに再認識を促す。委員会活動の対象ではない小学１年生から４年生は、朝の会等を活用して教員と共に投稿を見る時間を確保し、学校の様子や高学年になってからの委員会活動の取組をイメージすることができる。

ICTの活用によって、活動内容を可視化し、記録として蓄積されるため、簡単に振り返ることが出来たり、言葉での情報処理が困難な児童生徒にとってはSNSを通して簡単に振り返ったりすることが可能となる。また、他者意識をもって交流することで、現在の子どもたちの課題を解決し、自己実現の力が育めるような取り組みを提案する。

３つ目は、学校全体を会社に見立て、一つのテーマに向け各学団が役割を持って活動する「東学園カンパニー」についての提案である。社会参画の視点にポイントを絞り、指導目標を「東学園カンパニーにおける自分の役割を自覚し、全うする」とした。子どもたちが集団や社会に積極的に関わり、自己の役割を考え、実践する力を身に付けてほしいと考える。本提案は、地域の農作物を中心テーマとし、例としてサツマイモを取り上げたが、それ以外の農作物に置き換えることも可能である。

①小学１年生から４年生はキャリア形成の基礎・基本習得期とし、つくる喜びやかかわる喜びを感じることができる子どもの育成を目指す。小学１・２年生の栽培部では、身近な人々と関わる良さや生産の喜びに気づくことをねらいとし、サツマイモの栽培・収穫をする。友達や上級生と関わりながらサツマイモを育てることで、他者と関わり合う良さや育てる喜びに気づくことができると考える。関連する教科は生活科である。小学３・４年生の交流部では社会の一員としての自覚を持つことをねらいとし、社会福祉施設と交流する。交流会の内容を考えたり、利用者の方と一緒にサツマイモの蔓でリースを作ったり等を通し、地域の一員として貢献する喜びを感じることができると考える。関連する教科は総合的な学習の時間である。②小学５・６年生と中学１年生は、キャリア形成の深化・成長期とし、地域資源の良さを追求することができる子どもの育成を目指す。小学５・６年生の調理部では、地域の食文化に関心をもつことをねらいとし、開発部考案のレシピで食の匠の方々とともにサツマイモの調理を行う。調理や実食を通して、地域の人材や地域資源の良さに気づくことができると考えている。関連する教科は家庭科である。また、中学１年生の開発部では、リーダーシップと合意形成の力の育成をねらいとし、栽培部の栽培・収穫に携わるとともに、食の匠の方々とサツマイモを使ったレシピの開発を行う。下学年との交流を通して、リーダーシップを身に付け、自己肯定感を高めることができると考える。また、学級で話し合いレシピ開発することで、合意形成の力や地域資源の良さを追求する力がつくと考える。関連する教科は技術家庭科である。③中学２・３年生は、キャリア形成の完成期とし、身に付けた情報モラルを元に、地域資源の良さを地域外に発信することができる子どもの育成を目指す。所属する広報部では、ICT活用能力の育成をねらいとし、Instagram学校公式アカウントの運営を行う。各部署の活動の様子や開発部の考案したレシピ動画を配信することで、単なる知識理解にとどまらず、生活に生きる実践力を身に付けられると考える。関連する教科は技術家庭科である。④全学年合同で東学園カンパニー

総会を行う。総会では他者の考えを聞いたり、自らの考えを伝えたりする力の育成を目指し、各部署の取り組みや成果、課題を発表する。これによりキャリア教育の９年間の学びの構築ができる。⑤９年間を通して、活動の記録（業務日誌）に取り組む。低学年段階では紙媒体を写真データ化し、学年が上がるに伴いデジタル化していく。データの蓄積により、自己の成長を確認し生活に生かすことができると考える。

４つ目は授業改善につながる評価の提案である。学習指導要領に示された特別活動の評価の観点を踏まえ、教師の観察により活動の過程、児童生徒の意欲等に関する多面的な評価を行う。併せて学習活動内での児童生徒による自己評価や相互評価についても、有益な情報として学習評価へと反映させる。自己評価や相互評価は発達段階に応じてICTを活用し、データの蓄積を行う。これにより、児童生徒の成長が可視化され学習の振り返りも容易となる。また、これらの評価を教師自身の指導や活動内容に関する振り返りにも活用し、次の活動や指導の改善へとつなげていく。

（４）課題

ICTの活用での課題点は、情報モラル教育の徹底である。文科省ではICTを活用とともに情報モラル教育の推進を示している。継続的かつ発達段階に応じた情報モラル指導の実施が必要であると考える。また、ICTに依存しすぎない教育活動の在り方も考えていく必要がある。

また、９年間の一貫性を重視することと並行して、各学年団の発達段階に応じた活動の設定も課題である。本研究の「東学園カンパニー」においては、総会の開催・発表の仕方が課題である。本提案では全学年合同開催としたが、児童生徒の発達段階に応じた学びとなるような開催・発表の仕方を考える必要がある。

また、地域連携については、紫波東学園の学区が広範囲に渡り、児童生徒の居住地域も広がることから、東学園内や地域とどのように連携を図っていくかが課題である。開かれた学校における特別活動の実施は多くの方が関わる活動となるため、連携･協力体制に工夫が必要である。（文責：菅原裕子　佐々木啓太　昆陽依　古谷京香）

図表１

～紫波東学園　特別活動全体計画～

【学習指導要領】

課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成し，役割を分担して協力して実践し，学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践し,自主的，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に掲げる資質・能力の育成を目指す。

学級活動

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成し，役割を分担して協力して実践したり，学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに ,自主的 ，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

児童生徒会活動

異年齢の児童同士で協力し，学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて，計画を立て役割を分担し，協力して運営することに自主的，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

学校行事

全校又は学年の児童で協力し，よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養いながら，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

クラブ活動

各教科 道徳 総合的な学習との関わり

【文部科学省】

小中一貫校

目的
- 児童生徒が多様な職員、児童生徒と関わる機会を増やす
- 中学生が小学生との触れ合いを通じ、上級生の自覚・自尊感情の高まり

効果
- 中学生の不登校出現率の減少
- 学習状況調査における正答率の上昇
- 児童生徒の規範意識の向上
- 自尊感情の高まり
- 教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり

【紫波町及び紫波東学園】

紫波の教育目標

- 健康につとめ、明るいまちをつくる人
- 自然を愛し、美しいまちをつくる人
- きまりを守り、安全なまちをつくる人
- 教養を高め、心ゆたかなまちをつくる人
- あたたかく交わり、住みよいまちをつくる人

紫波東学園学校教育目標

	（知）	（徳）	（体）
小学生	豊かに思考し、表現して高め合える児童	自他を尊重し、思いやりの心を持つ児童	自分の体づくりを考え、行動できる児童
中学生	多面的に思考・判断し、互いの価値を認めて論理的に話し合える生徒	共感的に他者を受け止め尊重でき、自らの個性を見つめ人生設計できる生徒	生涯に渡る健康な生活について考え、行動できる生徒

紫波東学園の児童生徒の実態と課題

- 自尊感情・自己肯定感が高い
- 他者を尊重すること、思いやりの大切さの理解がある
- 学級や学校、地域などの固定的な人間関係の中では、素直に自分を表現することが出来るが、非日常的な環境では主体性に欠ける部分も見受けられる。
- 世の中一般の情報に過敏で弱く、SNSの情報などあっという間に広がってしまう。

紫波東学園の教育的地域資源

- リンゴやサツマイモなどの農産物の栽培が盛んである
- 各地区において，教育振興運動活動が実践されている。（紫波町HP　教育振興運動）
- 各小学校に特色ある行事がある。（Ex. 田植え踊り、星山神楽、金山太鼓）

【育成すべき資質・能力の重要な視点】

人間関係形成
違いを認めあい、みんなと共に生きていく力

社会参画
よりよい集団や社会を創ろうとする力

自己実現
なりたい自分に向けてがんばる力

【紫波東学園　特別活動】領域等による学校の土台づくり

他者の考えを聞いたり、自らの考えを伝えたりする問題解決的な話し合い活動の積み重ね、思考力・判断力・表現力を育む

集団とこの関係を理解し、集団の中での自己の役割を考え実践する

特活テーマ！

ＩＣＴを活用した異年齢交流、地域発信及び連携を図る特別活動

９年間を見通せる紫波東学園の良さを生かそう！

話し合い活動の提案

「話し合い活動：9年間を見据えた児童会生徒会活動づくり」

テーマ：人間関係形成
指導目標：異年齢集団の中で協力・協働し学校生活の充実・向上を図る。
主な活動内容
①東学園児生会（東学園執行部）の設定
…学校生活の充実・向上を目指す児童生徒会組織
拡大代表委員会（毎学期2回開催）各教室・家庭・端末でのオンライン配信
②児童会小学部会・生徒会中学部の設定
…生児会の下部組織として活動。各カテゴリーでの学校生活の充実・向上を目指す組織
カテゴリー代表委員会（毎月1回開催）
③学団集会の充実（週1回・随時開催）
…小12・小34・小56・中12　中3　学団での交流も可（流動な交流も可）
④縦割り活動（掃除・異学年交流の基盤）
その他
…発達段階においてＩＣＴ活用して話し合い活動の充実を図る。
例　学級会内のアンケート調査
反対賛成等の集計
質問意見送受信　委員会の連絡　オンライン配信等
課題：情報モラル関する指導
ICTの目的の確認…ICTに頼りすぎない教育

委員会活動の提案

「ICTを活用した委員会活動」

テーマ：自己実現
指導目標：モラルを身に付け、正しい情報をもとに発信する。
背景
近年，知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり，情報化やグローバル化といった社会的変化が，人間の予測を超えて進展するようになってきている。将来の予測が難しい社会においては，情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく，主体的に選択し活用していく力が求められる。SNSを巡るトラブルなども増大しており，子供たちには，情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための情報モラルも身に付けさせていく必要がある。
活動時間・内容

取組学年	小学5.6年生　中学生
活動時間	各委員会活動（小中合同）
活動内容	・各委員会のアカウントを開設し児童生徒同士で委員会内容の情報共有をする。(可視化) ・必要に応じて外部への行事告知はSNSを通して発信する。また、配付用広告チラシの作成は、タブレットを使って作成する。 ・活動の様子をLIVE配信する

東学園カンパニーの提案

東学園カンパニー

テーマ：社会参画
指導目標：集団と個の関係を理解し、集団の中での自己の役割を考え実践する
活動内容・活動時間

	育成したい力・態度	活動内容
総会（全学年）	他者の考えを聞いたり，自らの考えを伝えたりする力	・各部の取り組みや成果，課題の交流

	関連する教科	育成したい力・態度	活動内容
栽培部（小１・２）	生活科	身近な人々と関わる良さ・生産の喜びへの気づき	・友達や上級生と関わりあいながら，サツマイモを育てる
交流部（小３・４）	総合的な学習の時間	社会の一員としての自覚	・社会福祉施設におけるクリスマス会の開催（リースづくり，歌）
調理部（小５・６）	家庭科	地域の食文化への関心	・開発部考案のレシピを使ったサツマイモの調理
開発部（中１）	技術家庭科	リーダーシップ合意形成	・下学年の支援（植える，育てる，掘る） ・学級で２レシピ考案
広報部（中２・３）	技術家庭科	ICT活用能力	・Instagram学校公式アカウント運営（各部の活動の様子，開発部レシピの配信）

【評価計画】

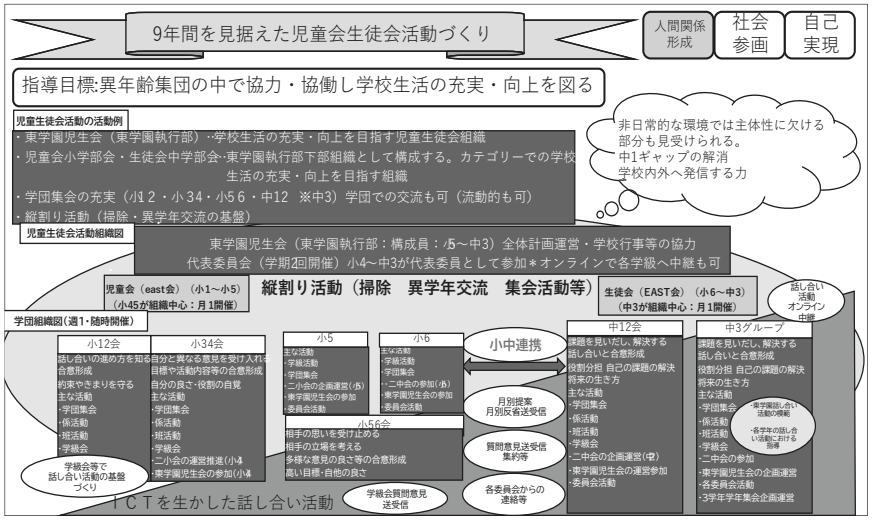
評価の観点
- よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能
- 集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現
- 主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする態度

評価の方法

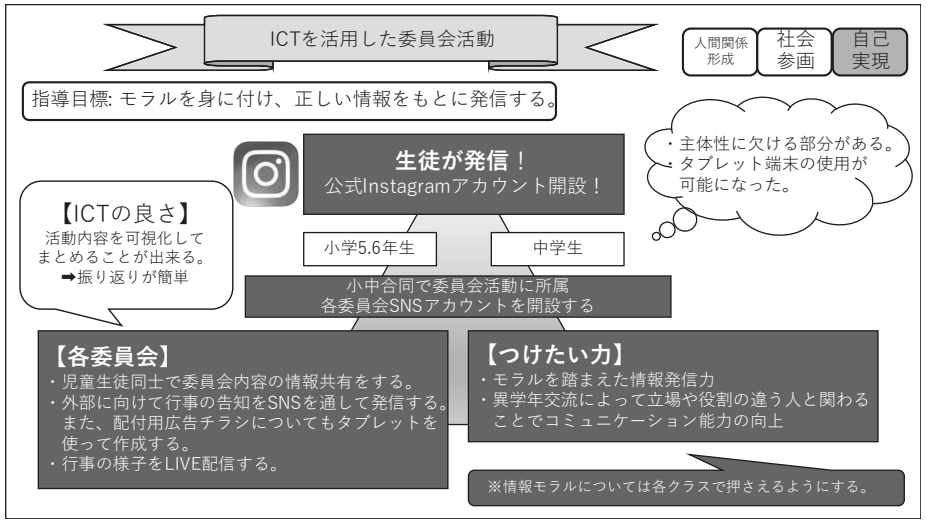
児童生徒の学習活動
・自己評価・相互評価（記録の蓄積・ICT活用）
教師による観察（記録の蓄積・ICT活用）

- 児童生徒の活動の評価（活動の様子・学びの様子）
- 活動内容自体の評価（内容の適切さ）
- 教師自身の指導の評価（指導内容・方法・教材等）

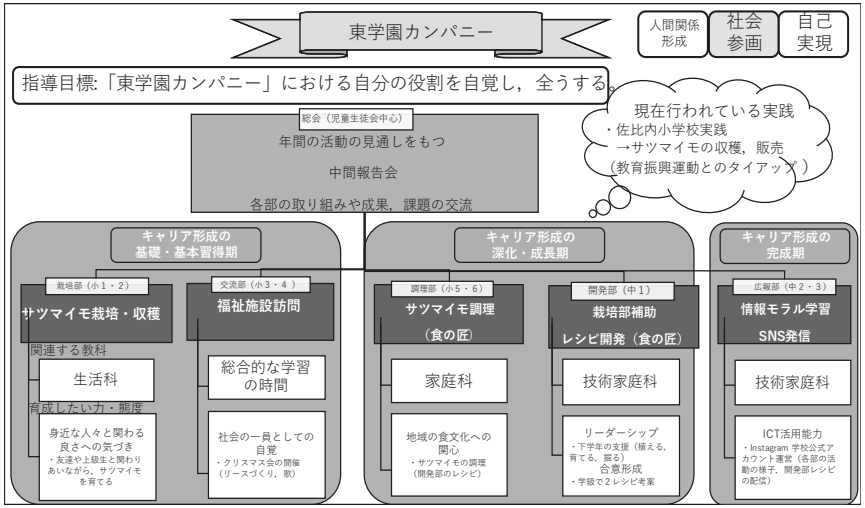
図表２　特別活動実施具体例



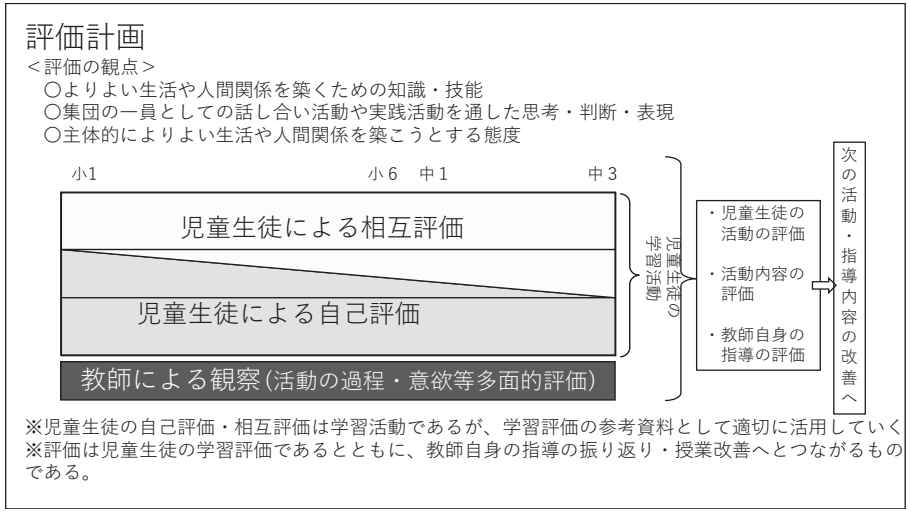
図表２－１　９年間を見据えた児童生徒会活動づくり



図表２－２　ＩＣＴを活用した委員会活動



図表２－３　東学園カンパニー



図表２－４　評価計画

2）「国語」について

（1）現状

国際化が進む社会では、論理的思考力が必要であり、自分の考えを根拠とともに明確に説明し、多様な人々と協働する力が必要である。様々な個性を持った人材が協働する中で課題を解決するために、リーダーシップを発揮できる人材の育成が求められている。そのためには、学校教育だけではなく、家庭や地域における豊かな言語環境が必要である。

紫波町では、令和３年度に行われた全国学力・学習状況調査において、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問には、肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回った。言葉の特徴や知識の理解、目的に応じて発言し、表現を工夫して書いているという､授業中の取り組みについての項目も、県平均や全国平均を大きく上回っている｡しかし、小学校６年生、中学校３年生とも、ピークの位置が全国、県を下回っている。特に中学校では、下位の生徒の引き上げが課題となっている。このことから、授業中の指示には素直に取り組む良さがあるが、自ら主体的に判断して行動する力と、言語能力の不足が課題であると考える。また、2021年の岩手県学習状況調査において、小５国語、中２数学の記述問題の無解答率が高く、学びのベースになる「書く」､「話す」の言語能力育成が課題となった。紫波町でも、全国学力・学習状況調査から、小６では全国より低いが、中３になると大きく増加している。このことから、小中連携を含めた確実な言語能力の育成が課題である。

（2）カリキュラム開発の視点

前項の実態と､紫波町の小中一貫教育の目標｢郷土を愛し、みらいを切り開く児童生徒の育成｣､および紫波東学園の教育目標「自ら未来を切り開いていく児童生徒の育成」のもと、国語教育全体計画を作成した。

まず、国語科の目標として、「音読による言語活動を通して、自他理解を深め伝え合う資質能力の育成を目指す」を掲げた。文章の表面的な読み取りしかできず、読解力が身についてないことが大きな課題と考えられるため、言葉を大切にした「正しい読み」の定着が求められるからである。また、小中学生が同じ校舎で学ぶ施設一体型の小中連携校である紫波東学園では、小学校、中学校の枠を超えた日常的な交流が可能である。行事などの交流だけではなく、教科での学びの交流も図ることで、「かかわり」についての意識も高めることができる。文部科学省「国語力を身につける国語教育のありかた」では、「音読」の効果を以下のように述べている。

「国語力や独創力とかかわる脳の場所が特に活性化するという脳科学の知見もあることから，積極的に音読を取り入れていくことが大切である。また，音読することによって，漢字の読みを覚えたり，文章の内容を確実に理解したりできる。」

小学校段階から、音読、暗唱にふさわしい文章を取り入れることで、日本語の美しい表現やリズムを身につけ、情緒力と豊かな人間性を身につけさせたい。

（3）モデルカリキュラムの提案とその特徴

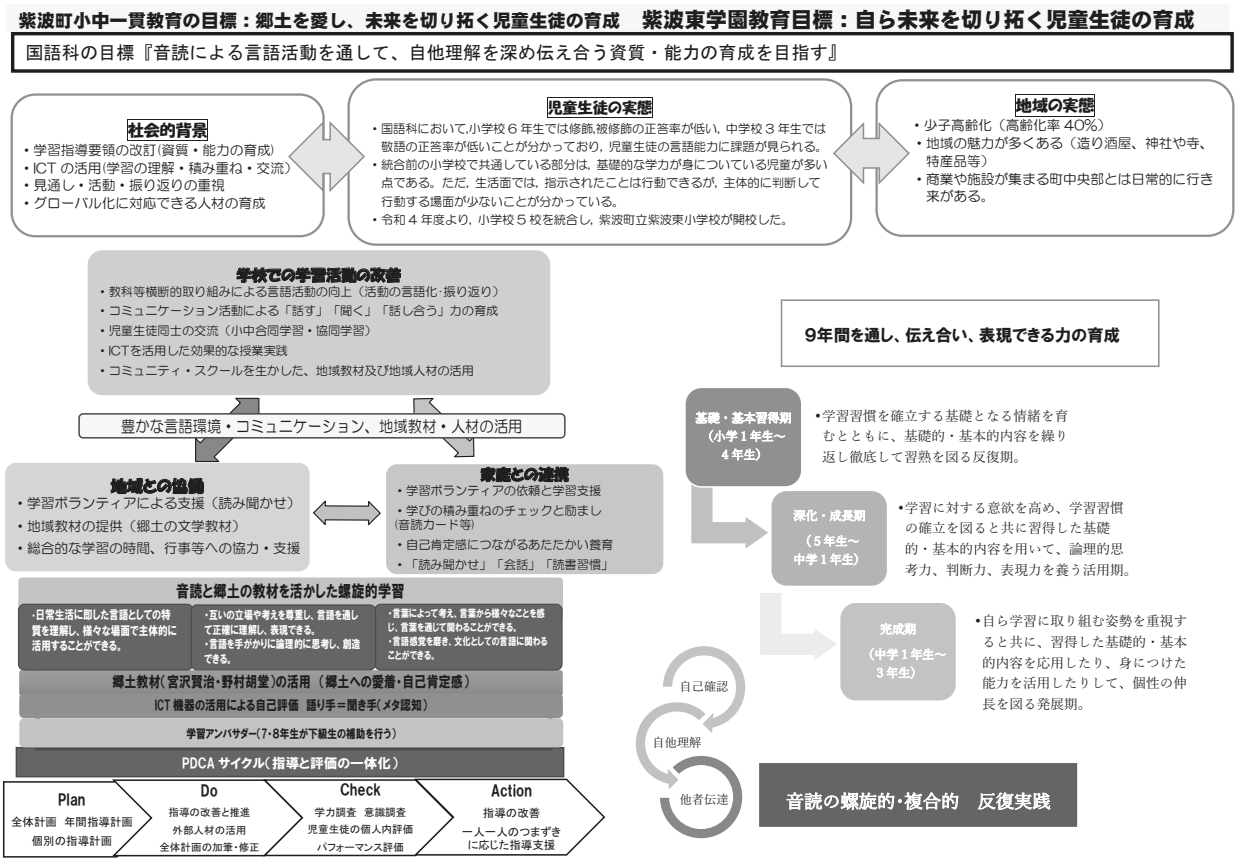
グランドデザインの特質は以下の通りである。

１点目は、音読と郷土教材の活用である。隣接する花巻市出身の宮沢賢治作品は、音読に適した表現が多い。９年間を通し、音読教材として取り組むことができる。また、義務教育段階では難解であるが、郷土出身の「野村胡堂、あらえびす」の音楽評論を学ぶこともできる。郷土教材を取り入れることで、郷土への愛着とそこで育った自己肯定感も高めることができると考えられる。

２点目は、ICT機器の活用である。今年度から１人１台端末が導入されているが、音読を録画することで、客観的な自己評価と相互評価を行うことができる。自分の話す姿を確認することで、メタ認知につながり、言語スキルも向上する。

３点目は、中学校１，２年生が下級生の学習補助を行う学習アンバサダーである。スクールバスの待ち時間を活用し、中学校１，２年生が短時間の放課後学習支援を行う。下級生の意欲向上だけ

図表１　紫波町の国語教育グランドデザイン



ではなく、教える立場の上級生も、教えることで学習の定着が図られる。また、中学生の定期テスト期間に小学校でも学習重点期間を設定することで、全校で学習に取り組むことができる。

次に学校、地域、家庭との協働である。グランドデザインでは、「豊かな言語環境･コミュニケーション」「地域教材･人材の活用」を意識した学校、地域、家庭の協働を目指す。学校では、教科横断的取り組みによる言語活動の向上のためリフレクションシートを活用し、日常の活動の振り返りを言語化させたい。「いわての授業づくり３つの視点」の視点３では、「学習の振り返り」について述べられているが、授業に加え特別活動などの日常の取り組みでも有効だと考える。文章で言語化する経験を重ねることで、記述問題に対する苦手意識も改善すると考えられる。

また、施設一体型小中連携校の特色を活かし、合同学習、協働学習で、児童生徒間の交流を図るとともに、「話す」「聞く」「話し合う」活動を取り入れ、生徒の言語スキル向上を目指したい。地域との協働では、地域の方々に学習ボランティアとして「読み聞かせ活動」に参加していただく。家庭では、PTA 活動を通し、「読み聞かせ」「会話」「読書習慣」を呼びかけたい。家庭での言語環境が児童生徒の基盤であることを、各種講演会、学校便りなどを通して周知したい。

次に、音読の目的・効果について述べる。小学校学習指導要領では、音読の機能について、「自分が理解しているかどうかを確かめる働き」と「自分が理解したことを表出する働き」について分けている。そして、音読によって表出することは、「他の児童の理解を助けることにもつながる」（解説国語編 p.49）と、学び合いについても述べている。斉藤（2001）は、「その文章やセリフをつくった人の身体のリズムやテンポを、自分の身体で味わうことができる」（p.202）と、児童生徒が日本語のリズムを楽しみながら学ぶ効果をあげている。また、言葉に出して読むことにより、理解力（読

解力）の向上と言語感覚を育てることができると考えられる。こどもたちは多くの情報をデジタル媒体から得ているのが現状である。また、コロナ禍による活動の制約、マスクを通しての生活で音声による活動が少なくなっているからこそ、言葉を声に出す活動が必要であると考える。

次に具体的な実践計画として、３点提案する。１点目は、授業開始３分間の音読活動である。国語の授業開始時に３分間の音読を継続的に行う。３分間の活動であれば、日常の取り組みとして無理なく行うことができる。広島県府中市府中学園では、算数・数学科の取り組み「学びプラス」として、全学年で、授業のはじめに「半九九」「分解九九」「分解足し算」「make10」などを導入している。紫波東学園の特色ある取り組みとして、音読活動を取り入れ、言語感覚だけではなく、「自分の考えに自信を持って言葉で伝えることができる」伝え合う力も育成したい。具体的な教材として、教材リストを作成した。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1年	中2年	中3年
宮沢賢治	・風の又三郎（どっどどどどうど） ・月夜のでんしんばしら ・星めぐりの歌	・雪渡り ・高原 ・あまの川	・貝の火 ・なめとこ山の熊 ・風がおもてで呼んでいる ・注文の多い料理店	・オツベルと象 ・いちょうの実 ・何と云われても ・春 ・猫の事務所	・美しき夕陽の色なして ・どんぐりと山猫 ・青そらのはてのはて ・短歌 ・きみにならびて野に立てば	・やまなし ・風の又三郎 ・雨ニモマケズ ・セロ弾きのゴーシュ ・そもそも拙者ほんものの清教徒ならば	・岩手山 ・グスコーブドリの伝記 ・原体剣舞連 ・雁の童子 ・農民芸術概論綱要 ・真空溶媒	・林と思想 ・春と修羅（序） ・告別 ・銀河鉄道の夜 ・檜ノ木大学士の野宿	・春と修羅（mental sketch modified） ・永訣の朝 ・青森挽歌 ・あすこの田はねえ ・僚友 ・眼にて云う ・松の針 ・無声慟哭
他	・いろはうた ・おおぞらのこころ ・りす、りす、小りす ・夕日 ・お月夜 ・ある時 ・いいてんき	・たきび ・雲 ・通りゃんせ ・花がふってくると思う ・雪 ・砂山 ・雨のうた	・耳 ・一番始めは ・花鏡 ・手袋を買いに ・竹 ・わたしと小鳥とすずと	・百人一首 ・草にすわる ・かなりや ・怪人二十面相 ・まり ・冬が来た ・春の歌	・雪 ・いろはかるた（江戸） ・平家物語（祇園精舎） ・蜘蛛の糸 ・男はつらいよ ・古今和歌集仮名序 ・からたちの花	・花 ・いろはかるた（京都） ・吾輩は猫である ・白浪五人男 ・枕草子 ・早口言葉 ・せんねんまんねん	・うゐらう売り ・道程 ・竹取物語 ・坊ちゃん ・山のあなた ・石川啄木 ・落葉松 ・山椒魚	・徒然草 ・扇の的 ・春暁 ・走れメロス ・石川啄木 ・正岡子規 ・斎藤茂吉 ・夢十夜 ・汚れちまった悲しみに	・初恋 ・千曲川旅情の歌 ・春望 ・おくのほそ道 ・論語 ・源氏物語 ・時そば ・レモン哀歌 ・遠野物語 ・羅生門
指導事項	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ・昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと		・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 ・易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと		・文章を音読したり朗読したりすること。 ・親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。		・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむこと。	・作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界に親しむこと。	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解するこ と。

図表２　自己確認　自他理解　他者伝達

特徴としては、宮沢賢治作品と、教科書に掲載されている教材を取り入れた。また、「声に出して読みたい日本語」「子供たちに声に出して読んで、覚えてほしい、書いてほしい作品集」（広島県教育委員会）を参考にした。各学年の指導事項に即し、詩、物語、古典などの作品を取り上げた。

２点目は、学期末の音読集会である。学期末に小学校１年生から中学校３年生までの縦割による音読交流会を行い。各学年２～３人で音読を発表し合う。１学期は日常の音読発表を行い、２学期、３学期には、中学校２，３年生が選んだ詩をグループで群読する取り組みも行える。他学年の前で発表することによる目的意識と他者評価、交流学習による豊かなかかわり合いを図ることができる。

３点目は、家庭との連携である。家庭での音読を「音読カード」に記入している小学校は多いが、ICT 機器を活用したい。タブレット端末を持ち帰り、家庭での音読を録画する。家庭での学びの積み重ねと励まし、自己評価にもつなげることができる。週一回または期間を決めることで、無理のない取り組みになる。

小中連携を見据えた実践として、中村（2015）の「自己確認」「自他理解」「他者伝達」を参考にした。ペアでの学習、グループ学習、全体での発表会など、多様な読みを創り上げることで、文章への「理解」が促進される。9年間を通し、文章

の内容と自分の読みを確認する「音読」から、文章全体に対する思いや考えをまとめ、表現性を高める「朗読」につなげたい。

「交流学習の視点からの単元事例」（図表３）と「言語能力育成の視点からの単元事例」（図表４）を作成した。交流学習では、小学校４年生と中学校１年生を想定した。小学生は伝え合う相手を意識した目的のある読みと、中学生の学びを取り入れ考えを深めることができる。中学生は、下級生と学ぶことによる意欲の向上と、発達段階による新たな学び直し、自己理解を深めることができる。今回は、「ごんぎつね」を取り上げたが、小学校５年生と中学校２年生の「大造じいさんとガン」、小学校６年生と中学校３年生の「やまなし」なども考えられる。読書は、発達段階で読む視点が広がり、新たな発見がある。生涯にわたる「読書」を通して「教養・価値観・感性」を身につける基盤となる経験になると考える。「言語能力育成の視点からの単元事例」は、小学校６年生を想定した朗読の授業である。自分が選んだ詩を朗読して紹介し、発表を聞いて感じたことを伝え合う活動で、「自己確認」「自他理解」「他者伝達」の三段階を螺旋的複合的に実践することができる。

最後に、紫波東学園の小中一貫教育のカリキュラム構想を以下に示す。

小学校１年生～４年生の「基礎・基本習得期」、小学校５年生～中学校１年生の「深化・成長期」、中学校２年生～中学校３年生「完成期」ごとの学習目標と系統性を一覧にした。

基礎・基本習得期を指導する教員が完成期を見据えた指導をすることや、深化・成長期指導でのつまずきを基礎・基本期指導の教員と共有し、解決をはかることで、９年間の一貫指導のメリットが生かされるものと考える。さらに次のステージ（高等学校）への教育へのつなぎ・橋渡し的な効果を発揮されることが望まれる。

（４）課題

一点目の課題は地域人材確保である。郷土の教材として「野村胡堂あらえびす記念館」との連携も考えられるが、具体的な提案には至らなかった。「読み聞かせ」の学習ボランティアの活用や地域教材の開発のため、紫波町コミュニティ・スクール基本モデルの地域学校共同チームと連携し、さらなる地域資源・人材の掘り起こしが望まれる。

二点目の課題は、教科横断的な取り組みの具体的提案と単元配列表の詳細な設定ができなかったことである。学園目標の「豊かなかかわり合いによる自己実現」を目指すために、国語科として児

図表３

【交流学習の視点からの単元事例】		
小学校第４学年　ごんぎつね		
単元目標	気持ちの変化を読み，考えたことを話し合おう	
単元について	本単元では，「ごんぎつね」を教材とし，気持ちの変化に着目して読み，考えたことを話し合う。それらの活動を通して，一人一人の感じ方に違いのあることに気付くことを目的とする。	
単元の流れ	〈小学４年生〉 1. 学習課題を設定し，学習計画を立てる。 2. 初発の感想をまとめる。 3. 場面１について，ごんの行動と気持ちをまとめる。 4. 場面２について，ごんの行動と気持ちをまとめる。 5. 場面３について，ごんの行動と気持ちをまとめる。 6. 場面４・５についてごんの行動や気持ちの変化をまとめる。 7. 場面６について，兵十が知ったことと気持ちをまとめる。	
	〈小学４年生〉 8. ごんと兵十の気持ちの変化について考えをまとめ話し合う。	〈中学１年生〉 1. 家庭学習 ロイロノートを利用し音読を録音したカードにて提出する。
	交流学習	
	9. 交流学習を通じて，物語や登場人物についての考えを深める。	2. 交流学習を通じて，物語や登場人物について小学生の疑問や思考を整理し，考えを深める。
	〈小学４年生〉 **10. 交流学習で学んだことについてまとめ，自分の考えを整理する。** 11. 学習を振り返り，自分の考えを深める。	
交流学習の目的	(小)話し合いを通じて，中学生の学びの視点を取り入れ，考えを深める。 (中)当時学んだことや現在感じていること等を想起し，小学生と共有して，自己の理解を深める。	
学習指導要領との関連	[各学年の内容]文章全体の構成や内容の代替を意識しながら音読すること。	

図表４

【言語能力育成の視点からの単元事例】	
小学校６学年　詩を朗読してしょうかいしよう	
単元目標	自分が感じたことが聞き手に伝わるように，詩を朗読しよう。
単元について	本単元では，お気に入りの詩を選び，それを朗読して紹介するという言語活動を設定している。選んだ詩の好きな表現とその理由を交流することで，詩の楽しみ方としての比喩や反復などの表現の工夫や効果に気付き，読書としてさまざまな詩を読む楽しさを味わわせる。
単元の流れ	1. 過去の教科書や詩集などから，お気に入りの詩を見つけ，詩のよさが伝わるように，朗読の仕方を考える。 2. 自分の選んだ詩を朗読して紹介し，発表を聞いて感じたことを伝え合うとともに，学習を振り返る。
言語能力向上	お気に入りの詩を朗読して紹介する際，「なぜなら(理由づけ)」「例えば(具体化)」「つまり(一般化)」などの思考などの思考に関する言葉を活用しながら，自分の感じたことや考えたことを交流できるようにする。
学習指導要領との関連	[各学年の内容]文章の構成や内容を理解して音声化することに加え，自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読や朗読をすること。

国語科　カリキュラム構想

図表５

	学年	国語科　各学年・各期の目標	系統学習
完成期	中３	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	・小中教員相互乗り入れ授業 ・縦割り学習（中３→小６　中２→小５　中１→小４） ・異学年間交流学習（中３～小１の一斉交流活動）
	中２	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	
深化・成長期	中１	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	
	小６	・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。 ・言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う	
	小５		
基礎・基本習得期	小４	・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。 ・言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	
	小３		
	小２	・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。 ・言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	
	小１		

童・生徒に付けさせたい力を具体化しなければならない。そして、児童・生徒の実態を受けての具体的な姿を示し、「国語科で身につけた力を他教科でどのように使うか」という視点で教科横断的な取り組みを検討していく必要がある。（文責：黒渕大介・及川総司・近藤開人・本宮大千）

３．考察（紫波町教育委員会より）

本研究で提案する２つのモデルカリキュラムに対し、紫波町教育委員会の佟美教育長から次のような御意見を頂戴した。

（１）特別活動

○紫波町の課題や願いが検討され構造的なグランドデザインとなっている。

○集団活動・人間関係・生き方の視点から構造化されている。

○小学校と中学校の共通点・相違点から９年間の発達を重視して連携が図られるよう工夫されている。

○過疎地域にありがちな「固定的人間関係」「主体性の欠如」の改善に資する構想が随所に見ることができる。

○紫波東カンパニー発想はユニークである。

●特別活動自体、集団と自己の関わりを醸成する領域であることから、ICT 活用と具体的なアナログ活動との量や質のバランスを調整する必要がある。

●特別活動の指導時数（年間35H ＋行事＋委員会等）の用意周到な配当計画が重要である。

●このカリキュラム構想の実施に当たり、総合的な学習の時間、児童会・生徒会活動等との用意周到な教務主任レベルでの指導、時数調整が不可欠である。

（２）国語

○地域課題解決のための方途が国語科として検討されている。

○紫波町の教育課題（無回答・記述・言語活動）を理解して構想されている。

○東学園９年間の学びの交流としての「音読」は興味深い。

○学習アンバサダーの発想は興味深い。児童生徒の交流含め汎用性の高い発想である。

○岩手や紫波にゆかりの深い作家や詩人の教材を開発し、基礎修得期から完成期までの９年間にわたる目標と作品をタイアップさせており実現性が高い。

●国語科はアナログ的な学習も必要と考える。今後デジタル教科書との併用も含め、ICT 活用・ICT 教材の活用等、院生においても開発を進めてほしい。

●家庭学習･宿題は古くて新しい問題である。「効果のある学校の特徴」8-9-10-11[1)] の検討をしつつ保護者の関わり方も今後の課題である。

教育長も述べられているように、両モデルにおける東カンパニーや学習アンバサター等の新しいアイディアは、地域の特徴や小中一貫、施設一体型の利点を生かした取り組みであり、本地域の児童生徒の資質・能力の育成に資する可能性が高いと考えられる。また、ICT や音読に着目した活動は、現学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力として規定されている情報活用能力や言語能力の育成につながるものであり、系統的な取り組みが工夫されている。一方、実際の運用に当たっては、各モデルの具体的な指導計画、他教科等との連携・調整、地域との協力体制の構築が必要である。（文責：坂本有希）

４．成果と課題

はじめに各カリキュラムの成果について述べる。特別活動ではこれまでの町の教育振興運動の内容や地域の産業についても検討し、現在の小中一貫教育が進められた複合的な目的を踏まえたカリキュラムを構築した。国語においては、小中一貫・小中連携教育の先行研究から実践の留意点を分析したことで、実現性の高いカリキュラムが構築できたと考えられる。さらに双方とも9年間各時期の発達段階に配慮した内容が構想され、各段階が連続するだけではなく往還する仕組みを設けているという共通性もみられた。

課題として、紫波町教育委員会の佺美教育長からは特別活動では指導時数配当計画や、各活動・時間における教務主任レベルでの指導、時数調整が求められることが指摘された。カリキュラム構想メンバーによる「新たな地域との連携体制」とともに、学校内での連携体制を視野に入れることでより実現可能性が高まると考えられる。また国語においては、教材の開発（ICT 教材含む）や家庭学習（保護者の関わり方）についての指摘がなされた。特に ICT 教材については、冨山・佐野（2021）が示す個に応じた学びの保障や、羽田（2020）のように ICT 教材の特徴を生かした新たな授業観に基づくカリキュラム改善も今後必要となることが予想される。（文責：馬場智子）

参考文献

刈谷剛彦・志水宏吉（2004）『学力の社会学』岩波書店

義務教育学校　府中学園　カリキュラム　<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~fu-chu /pdf/curriculum.pdf>（最終閲覧：2022年2月2日）

国立教育政策研究所　教育課程教育センター（2013）『学級・学校文化を創る特別活動中学校編　学級活動の基本　話し合い活動を中心にして』

国立教育政策研究所　教育課程研究センター（2018）『小学校新学習指導要領準拠　みんなで、より良い学級・学校生活をつくる特別活動小学校編』

斎藤孝（2001）『声に出して読みたい日本語』草思社

紫波町（2019a）『紫波町立学校再編基本計画』

紫波町（2019b）「紫波ネット1017号」令和元年10月9日 発行 <https://shiwa.saksak.jp/back/1910/pdf/all.pdf>（最終閲覧：2021年12月26日）

冨山敦史・佐野智子（2021）「橋小学校との連携による教育現場に根ざした現代的・実践的な教員養成に係る研究報告（国語科１）―国語科における ICT 活用による授業観の変容に着目して―」常葉大学教育部初等課程研究企画部会『教育研究実践報告誌』第5巻第1号, pp.50-59.

中川知美・林未和子（2011）「さつまいもを題材とした小学校生活科の授業実践」『三重大学教

育学部附属教育実践総合センター紀要』第31号, pp.93-97.
中村佳文（2015）「小中連携を見据えた国語科「音読」の螺旋的複合的授業実践」『宮崎大学教育文化学部付属教育協働開発センター研究紀要』第23号, pp.43-56.
花坂歩（2015）「「音読・朗読」概念の再構築（再考）」九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』第3巻1号, pp.1-11.
羽田潤（2020）「国語科メディア教材としてのマルチモーダル・テクストの可能性―短編アニメーション『ひな鳥の冒険』の予告編制作から見えてきたもの―」全国大学国語教育学会『国語科教育』87, pp.11-13.
松浦年男（2019）「小学校国語科における音読教育の目的と効果　文献レビューによる検討」『北星学園大学文学部北星論集』第56巻第2号, pp.25-42.
文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領』
文部科学省（2017b）『小学校学習指導要領解説国語編』
文部科学省（2017c）『中学校学習指導要領』
文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引 - 追補版 -（令和2年6月）』
<https://www.mext.go.jp/content/20200608-mxt_jogai01-000003284_002.pdf>（最終閲覧：2021年12月27日）
吉野町・吉野町教育委員会（2021）吉野町立小中一貫校吉野さくら学園
<http://www.town.yoshino.nara.jp/chomin/eff53dde5f6f155c650bcc77db8131258170a4c3.pdf>（最終閲覧：2022年2月2日）

注

1）刈谷・志水（2004）, p.234に「効果のある学校」の特徴として11項目が挙げられている。教育長が言及した8～11項目は以下の通り。

8．生徒の権利と責任の尊重
9．目的意識に富んだ教え方
10．学習を促進する教授組織
11．家庭との良好な関係づくり

謝辞

本稿執筆に当たっては、紫波町教育委員会・佗美淳教育長をはじめとする紫波町教育委員会の皆様、紫波第二中学校の教職員の皆様など、資料提示、学校訪問等多くの方々にご協力いただきました。あらためて感謝申し上げます。